

# 平成29年度第4回自立支援協議会要旨録

日時	平成30年2月21日(水) 10:00~12:00
場所	美竹の丘・しぶや2階 会議室A
出席者	<p>&lt;委員&gt; 14人  高橋会長 本田副会長 浦野委員 大日方委員 堀口委員 栗野委員 東尾委員  青木委員 中村委員 須藤委員 坂本委員 原委員 野崎委員 三宅委員</p> <p>&lt;事務局&gt; 16人  <b>福祉部</b>: 福祉部長 障害者福祉課長 福祉計画推進係長 身体障害者福祉主査  知的障害者福祉主査 就労支援主査 福祉計画推進係職員2人  <b>健康推進部</b>: 地域保健課長 保健指導主査 地域医療係職員1人  <b>子ども家庭部</b>: 子ども総合支援センター長 子ども発達相談センター所長</p> <p>&lt;その他&gt; 2人  都市整備部都市基盤整備担当課長 委託業者1人</p>
傍聴者数	12人
議事内容	
<p><b>1 次期計画素案のパブリックコメントの実施結果について</b>  事務局が、資料1に基づき施策区分ごとの主な意見を報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パブリックコメントの結果は4月以降に区のホームページに掲載する予定。</li> <li>パブリックコメントの意見を全て計画に反映することはできないが、「意見の多かったもの」「3年間で進めていくべきもの」を中心に、来年度から計画のPDCAを進めるなかで、施策の追加や変更を検討していきたい。</li> <li>PDCAの管理表を作成し、施策区分ごとの取り組みを随時取りまとめ、進捗状況を一覧で把握できるようにしたい。</li> </ul> <p><b>2 次期計画策定の答申案について</b>  福祉計画部会長が、資料2に基づき前回協議会で提示した素案からの変更点を中心に説明。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>(主な変更点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前計画の取り組みを詳しく記載。(P.16)</li> <li>「基本理念」と「3年間で進めること」を短くまとめた。(P.19)</li> <li>「2-2働く」を「2-2社会参加」に改め、生活介護等についても追加。(P.29)</li> <li>「2-4暮らしを支える」の内容を「2-2社会参加」と「2-3地域で暮らす」に再編成。</li> <li>重点的な取り組みだけでなく、施策区分に応じて個別施策を追加。(P.43以降)</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもに関する施策を充実させていくためには、福祉だけでなく、保育、教育、医療保健などの各分野のメンバーが集まり、協議する場が必要である。</li> <li>相談支援体制を充実させていくためには、基幹相談支援センターを中心に、既存のネットワークを活用し、取りまとめる体制を検討していく必要がある。そのためにも、基幹相談支援センターの運営について、相談支援部会を中心に検討していくことが次年度以降の協議会の課題である。</li> </ul>	

#### 【主な質疑・意見】

- 新規施策を行うにはスクラップアンドビルドも必要になるので、施策の必要性についてどのように意見を集約するかが重要となる。
- 医療的ケアの必要な子どもや、重度の障害のある子どもをどのように支援していくかが重要。一方で、事業者間の情報共有が不十分であると感じる。
- 現計画との違いは「切れ目のない支援」という視点。そのためにも、基幹相談支援センターをどのように運営するかを具体的に議論していくことが重要。
- 区には、縦割りの所管にとらわれずに、庁内連携を強化してほしい。
- 高齢者の独居等が課題となっているなか、地域で支えるという視点が重要。来年度以降の協議会では、住民の具体的な活動を持ち寄り、情報共有してはどうか。
- 災害対策の取り組みとして、障害者の情報保障を含めてほしい。
- 知的障害者は、外から見ただけでは障害の程度がわかりづらい。だからこそ、こころのバリアフリーを広め、障害について知る機会を増やす活動を進めていきたい。地域で活動することにより災害時の連携等にも役立つのではないか。
- 災害時は、あらゆる事前準備が意味をなさないことを想定しておかねばならない。地域の中で障害理解を進めること、社会的弱者の存在を周知していくことが重要。
- 障害者雇用を推進し、定着させるためには、企業の管理職や人事担当だけでなく、一緒に現場で働く職員の理解が必要。
- 支援者の人材不足が深刻となっているなか、住民が施策やサービスを有効に利用できる体制をどのように整備するか今後検討していきたい。

※答申案の取りまとめを会長に一任することを承認。

### 3 各専門部会報告

#### ①相談支援部会

部会長が、資料3に基づき活動内容を報告。

- 第2回相談事業所連絡会は講師を招いて実施した。活動費があれば、学習会や事例検討など相談支援事業所の資質向上のため活動の幅が広がるのではないかと。
- 部会では、人材の確保と事業所を増やすことが重要な課題と考えている。安定した運営ができる環境を整備しなければ事業所は増えていかない。
- 来年度は、基幹相談支援センターの立ち上げに向けた仕組みづくりに協力していく。

#### ②就労支援部会

部会長及び副部会長が、資料4-1～4に基づき活動内容を報告。

- 福祉就労グループは「高齢・障害ネットワーク会議」を中心に活動した。第2回の会議では、介護保険の制度と障害福祉の制度の違いが分かりにくいという意見が多かった。資料4-3は、国等が公表しているものではなく、自分たちで調べてまとめたもの。まだ不十分ではあるが、比較しやすく、わかりやすい資料として完成させたい。
- 高齢分野と障害分野が協力して、家族全体を支援していくことが最大の目標。

- ・来年度は、高齢分野に加えて、学校卒業後の切れ目ない支援という視点から児童分野との連携を強化していきたい。
- ・一般就労グループは、区役所内実習を中心に活動した。今年度2回目の実習では、参加者も日数もさらに増えている。新庁舎移転後、区役所で障害のある人を臨時職員として雇用すると聞いているが、仕事の切り出しが重要と思う。

#### 4 子ども部会の設置について

事務局が、資料5に基づき来年度から子ども部会（仮称）を設置することについて提案。

- ・協議会や専門部会で、子ども部会が必要との声が多く上がっていたことを踏まえ、次期計画の初年度となる平成30年度から新たに設置したい。
- ・取り組む内容としては、障害児の相談、サービス利用、地域での支援体制などを想定している。
- ・構成メンバーは、障害分野だけでなく、各方面の方々に関わってもらいたい。

##### 【主な質疑・意見】

- ・「障害のある子ども」の対象をどう捉えるのか。また、家族も含めた支援という視点についても検討してほしい。
- ・子ども部会のメンバーには、教育関係者も含めたほうがよい。

※来年度から子ども部会（仮称）を設置することについて承認。

#### 5 その他

##### ①来年度の協議会日程について

事務局が、資料6に基づいて説明。

- ・来年度は4月に臨時会として、委嘱式や会長・副会長の互選などを行う。

##### ②「渋谷駅周辺地区バリアフリー基本構想」（素案）に対するパブリックコメントの実施について

都市整備部都市基盤整備担当課長が、資料7に基づいて説明。

- ・「渋谷駅周辺地区バリアフリー基本構想」（素案）のパブリックコメントを、平成30年2月19日から3月5日まで受け付ける。

##### （会長挨拶）

来年度から専門部会が一つ増え、課題も増えてくる。協議会の力量を超えるような課題もあると思うが、協議会として取り組むべき課題にしっかりと向かい合っていきたい。

— 閉 会（12：00） —